

| 項目   | 確認事項   | 届出内容   |
|------|--|--|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等)   | 帝京大学   |
|      | 大学等名1(代表大学等)※カナ  | テイキョウダイガク  |
|      | 大学等名1(代表大学等)※学校コード   | F113310103769  |
|      | 大学等名1(代表大学等)学校本部所在地  | 東京都  |
|      | 大学等名1(代表大学等)学校種別   | 私立大学   |
|      | 科目名  | インターンシップ   |
|      | 学部・研究科等名   | 経済学部・法学部・文学部・外国語学部・教育学部・医療技術学部   |
|      | 担当教職員名・役職  | 共通教育センター 高野裕   |
|      | 受講者数実績年度   | 令和3年度  |
|      | 受講者数※インターンシップ参加者数  | 50   |
|      | 受入企業等数   | 31   |
|      | 受入企業等名   | 青山商事グループ、株式会社イトーキ、株式会社エービーシー商会、大原学園グループ、株式会社オカムラ、株式会社Olympic、株式会社学情、神奈川トヨタ自動車株式会社、株式会社紀伊國屋書店、株式会社京王エージェンシー、京王電鉄株式会社、埼玉トヨタ自動車株式会社、株式会社サンドラッグ、株式会社ジェイ・ブロード、西武信用金庫、大成温調株式会社、株式会社タカキュー、帝京大学本部、デリカフーズ株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社東計電算、東邦ホールディングス株式会社/東邦薬品株式会社、西尾レントオール株式会社、株式会社日興商会、株式会社バスケットボールジャパン、八王子市役所、株式会社文化放送キャリアパートナーズ、株式会社ベルク、株式会社マイナビ、丸三証券株式会社、株式会社ヤオコー、八千代エンジニアリング株式会社、渡辺パイプ株式会社 |
|      | インターンシップの分類  | 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ<br>9.中小企業でのインターンシップ  |
|      | 上記以外のインターンシップの分類(記述欄)  |  |
| 要素①  | 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。   | 1.はい   |
|      | 1-2.該当する就業体験   | 1.企業等における業務への従事<br>2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)   |
|      | 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容   |  |
|      | 1-3.上記回答内容に関する詳細   | 1.営業同行をしてお客様とのコミュニケーションの取り方や社内の仕事の流れ、業界について学び、就職活動に活かせる内容を実施 2.業界や企業が抱える課題を発見し、解決する「課題解決(PBL)型」のインターンシップ   |
| 要素②  | 2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい   |
|      | 2-2.該当するインターンシップの内容  | 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している<br>6.当該インターンシップは、選択科目として実施している<br>8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している   |
|      | 2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容  |  |
|      | 2-3.当該インターンシップを実施する年次  | 大学 学部3年  |

|   |   |
|---|---|
| 2-4.当該インターンシップで付与される単位数   | 大学 4単位  |
| 2-5.上記回答内容に関する詳細  | 3年生を対象に、「インターンシップ」として計30回の正規キャリア教育科目を実施。実習は夏期休暇期間中に行い5日以上（2021年度についてはコロナ禍の影響により、変動あり）行い、履修学生は全員参加することができる。  |
| 3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい  |
| 3-2-1.該当する事前学習の内容   | 1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている<br>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている<br>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている<br>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している |
| 3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容   |   |
| 3-2-2.該当する事後学習の内容   | 1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている<br>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている<br>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている   |
| 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容   |   |
| 3-2-3.該当するモニタリング  | 2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している  |
| 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容   |   |
| 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細   | 実習前（春期・15回の授業）では、下記を中心に実施。①インターンシップに対する目的意識の明確化。②挨拶・マナー等の基礎。③職場での課題対応の仕方。④人事担当者を招き、企業が「求める人材」を理解。⑤実習前に決意表明を行うことで自覚と責任・目標意識を醸成。  |
| 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細   | 実習後（秋期・15回の授業）では、以下を中心に実施。①「成果報告会」の実施。インターンシップ受入企業担当者を招き、成果発表報告（スピーチ）を一人3分程度で実施。②社会人として働くための心構えやスキル習得。③卒業後のキャリアデザインを明確化。④就職活動への実践的スキルの習得。   |
| 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細   | 実習後の報告書作成に際して、キャリアサポートセンター（就職担当課）での書類添削および実習内容の状況確認。  |
| 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。   | 1.はい  |

|                                  |  |  |
|----------------------------------|--|--|
| 要素④                              | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み  | 1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている                              |
|                                  |  | 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している                               |
|                                  | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み  |  |
|                                  | 4-3.上記回答内容に関する詳細   | 成果報告書を作成し、インターンシップ全体の振り返りを実施。事前事後に社会人基礎力を用いて、客観的に実習参加前後の違いを把握。受入企業担当者より勤務評価表による実習中の評価。 |
| 要素⑤                              | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。  | 1.はい   |
|                                  | 5-2.該当する実施期間   | 1.連続した5日間以上の実施期間を確保している  |
|                                  | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合  | 実施期間5日以上の実施  |
|                                  | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合  |  |
|                                  | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合   |  |
|                                  | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容  |  |
|                                  | 5-3.上記回答内容に関する詳細   | 原則5日以上の実習実施。しかし、2021年度についてはコロナ禍の影響により5日間の実習期間を確保できない企業が生じた。                            |
| 要素⑥                              | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。                     | 1.はい   |
|                                  | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容   | 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている  |
|                                  |  | 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している   |
|                                  |  | 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している   |
|                                  |  | 6.企業と協働して、PDCAを実施している  |
| 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容 |  |  |
| 6-3.上記回答内容に関する詳細                 | 企業受入担当者には、大学のWEBシステムを利用し、事前に実習プログラムの入力をお願いしているほか、大学担当者と企業担当者間で連携を取り、実践的かつ効果的な実習の実施を目指している。 |  |
|                                  | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL                             |  |
| 問い合わせ先                           | 大学等名   | 帝京大学   |
|                                  | 担当部署名  | キャリアサポートセンター   |
|                                  | 担当者役職名   |  |
|                                  | 担当者氏名  | 吉原 岳人  |
|                                  | 電話番号   | 042-678-3307   |
|                                  | メールアドレス  | <a href="mailto:yoshihara@teikyo-u.ac.jp">yoshihara@teikyo-u.ac.jp</a>                 |